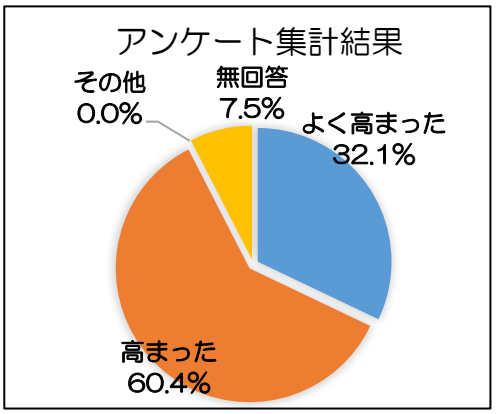
研修のまとめ

佐世保市幼児教育センター

令和７年度　　保幼小連携研修　生活総合部会研修

目　的	幼児期から児童期への滑らかな接続に向けて、子どもの育ちと学びをつなぐための就学後の具体的な取り組みについて学ぶ。
日時・場所	令和７年８月20日（水）　総合教育センター　中研修室１・２
対　象	乳幼児教育・保育施設職員 小学校及び義務教育学校職員 西九州させぼ広域都市圏対象講座
演　題	主体的に学びに向かう力を育む架け橋期 ～探究でつなげる保幼小のカリキュラムを考える～
内　容	講義
講　師	兵庫教育大学　教授　鈴木正敏　氏

参加者（合計　88　名）				
保育所	幼稚園	認定こども園	小学校	その他
22	24	7	34	1



【感想】

- 幼児期にちゃんと失敗すること、成功することを体験したうえで小学校に進学させていくことが大切だと思うし、その共有がとても大事になると思う。
- 普段保育をするうえで、必要以上に手を貸してしまっていると感じた。学びのチャンスを幼児期でたくさん経験してほしいので、教諭側も失敗を恐れないことが大切だと思った。
- やってみたいと思う気持ち、そのためにどうしたら良いかと考えること、向かう姿勢が必要だと思いました。そのための教師の環境づくりや関わりが重要だと思いました。
- 幼児期は主体的に考え、「やりたい」気持ちを第一に進められているように感じるが、学校にあがると、みんな同じことをするようになる。どちらも大事だとは思うが、子どもの気持ちも考え、授業や学校を楽しいと思えるようになってほしいと思う。
- 近くの小学校、幼稚園の先生とコミュニケーションがとれてよかった。
- 子どもにもっと色々な体験をさせてあげたい。もっとたくさんのことについて興味を持ってもらって、探究していけるような活動をしていきたいと思いました。
- 失敗を喜べる人的環境となりたいと強く思いました。明日からの保育が楽しみになりました。
- 物足りなさも感じたので、今後このようなお互いの理解を深め合う研修を続けていただきたい。